

1 学校教育目標

- よく考えすすんで学ぶ子 ○ やさしさと思いやりのある子 ○ 明るく元気な子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	足立小学校スローガン「期待の登校・満足の下校」	
	○ 全ての子供が学ぶ喜び、友達とかかわり合う喜びを味わえる楽しい学校	⇒ 「子供にとって安全・安心な学校」
○児童・生徒像	○ 教職員が一体となって子供の育ちを支え、その成長を共に喜び合える学校	⇒ 「教職員が高め合う学校」
	○ 保護者が我が子を通わせてよかったと実感でき、地域からも信頼される学校	⇒ 「保護者や地域とともに子供を育む学校」
	○ 話をしっかりと聞き、主体的に学び、自分の考えや思いを表現できる児童	
○教師像	○ 互いの違いやよさを認め、仲良く助け合い、協力し合って活動できる児童	
	○ すすんで体を動かし、心身共に健康で自分のめあての実現を目指して努力できる児童	
	○ 全ての児童の実態を的確に把握し、個に応じた適切な指導ができる教師	
○ 児童に求めることは自ら率先垂範し、自ら学び続ける教師		
○ 学校に求められる課題を真摯に受け止め、経営参画意識をもって取り組む教師		

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- ・ 明るく素直で、自分の思いをすすんで表現できる児童が多い。誰もが学び、生活しやすい環境づくりに努めてきたことで、学校全体として規範意識が向上し、感情を自己調整できる児童が増えている。学びに向かう力の高まりが、基礎的・基本的な学習内容の定着につながることを目指してきた。
- ・ コロナ禍の経験を生かし、「アフターコロナ」においても教育活動の充実に努め、多くの成果を上げることができた。引き続き、学校、学年単位での共通行動を徹底しながら教育活動の充実に努めていく。
- ・ 学校に求められる課題を理解して指導の工夫に努めるなど、教職員一人一人の経営参画意識は高い。GIGAスクール構想に基づくICTの活用も進んでいる。子供の学びを支援する「伴走者」としての能力を教職員一人一人が身に付けられるように努めていく。
- ・ 保護者や地域住民が学校に対して協力的であり、教育活動に対する理解・協力を得られていることに感謝している。社会の変化に対応した、PTAや開かれた学校づくり協議会との連携を在り方も含め、保護者・地域の信頼を維持・向上できるように努めていく。

【前年度の成果と課題 ～自己評価・学校関係者評価の概要と改善方策～】

- ・ 授業力の向上や学習規律の確立により、基礎的・基本的な学習内容の定着が進んでいると評価を受けている。今後、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業づくりを推進し、児童一人一人の「学びに向かう力」を育てることを重視しながら、その結果としての「資質・能力の向上」を目指していく。
- ・ 学校ホームページによる情報発信や日々の活動により、地域と連携した学校のイメージが定着していると評価を受けている。引き続き、教育活動等の積極的な情報発信を継続していく。
- ・ 年間を通じて児童が運動に親しみ体力向上につながる活動の実施が評価を受けている。前年の研究発表した成果を生かし、体力向上に努めていく。
- ・ 組織的な生活指導や個別支援の体制を確立し、問題の早期発見・解決に努めていくとともに、児童の「危険を予測し回避する能力」を高めていく。
- ・ スローガンである「期待の登校・満足の下校」は、一定の評価を受けている。引き続き、家庭と地域と様々な教育活動を通じて継続していく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン（学力向上／研究・研修）	○	○	○	○	○
2	安全・安心な学校づくりの推進（健康・安全／個別支援）	○	○	○	○	○
3	保護者や地域と共に子供を育む活動の充実（教育課程／特別活動）	○	○	○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎的・基本的な学習内容の確かな定着		<ul style="list-style-type: none"> 区調査目標通過率 85% 到達度確認テスト 80% 							
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	【授業改善】 ○楽しく挑戦したくなる授業の創造	○全学年 ○全教科	常時	○ICT機器を活用した個別最適な学習の推進 【指導】全教員 【内容】足立スタンダードを基盤とした授業の定着とICT機器の活用 ○教科指導専門員を活用した授業研修の実施	○主体的・対話的で深い学びの実現 「めあて&振り返り100%」 「ICT活用90%」	○学校評価アンケート 「すすんで学習」肯定率90%以上 ○児童自己評価80%以上			
2 継続	【パワーアップタイム】 ○現学年の基礎的・基本的な学習内容の確実な習得	○全児童 ○国語・算数	【昼10分間】 ○月・木曜 漢字 ○火・金曜 計算	【指導】担任 【内容】区調査や単元末テストで定着率の低い漢字や計算の習熟 【教材】漢字・計算等のプリント「次へのステップ」 AIドリル「Qubena」	○パワーアップテスト 漢字・算数 年3回実施	○国語【8・11・1月】 目標値：全国平均以上 通過率：80%以上 ○算数 【9・12・2月】 目標値：全国平均以上 通過率：80%以上			

3 継続	【補習教室】 ○現学年及び前学年までの学習内容の確実な定着	○区調査目標値未達成児童 ○単元テスト正答率70%未満の児童 ○国語・算数	【朝15分間】 読書・補習タイム (週1回)	【指導】全教員 【内容】つまづきをさかのぼり、個別もしくは少人数で指導 【教材】区学力調査問題、漢字・計算プリントやAIドリル、単元テスト、TBD 「次へのステップ」	○区調査活用 【7月】現学年 【1月】次学年	○到達度確認テスト 【2月】 2教科通過率75%以上			
4 新規	【夏休み特別学習教室】 ○サマースクール ○AIドリル活用型サマースクール ○夏そだち教室	○基礎的・基本的な学習内容の定着・習熟が十分でない児童 ○国語・算数	夏季休業中前半 (10日間) 一日60分	【指導】全教員 【内容】区調査で目標達成度の低かった単元 【教材】区学力調査問題、漢字・計算プリントやAIドリル、単元テスト、TBD 「次へのステップ」	○区調査活用 【7月】現学年 【1月】次学年	○到達度確認テスト 【2月】 2教科通過率75%以上			
5 継続	【家庭学習ぐんぐん週間】 ○家庭学習習慣の定着 ○学びに向かう力の向上	○全学年 ○主として国語・算数	【4・6・9・10・1月】 各月1週間	【指導】担任・保護者 【内容】「家庭学習の手引き」により保護者との共通理解を図り、家庭学習習慣を定着	○宿題提出状況調査	【4・6・9・10・1月】 宿題提出率90%以上			

重点的な取組事項－2		安全・安心な学校づくりの推進					
A 今年度の成果目標		達成基準		実施結果		コメント・課題	達成度
子供がより安全に、安心して学ぶことができる環境の確立		学校評価アンケート：以下の3項目肯定率90%以上が2項目以上					
B 目標実現に向けた取組み							
項目	達成基準	具体的な方策		実施結果		コメント・課題	達成度

(1)安全な生活環境の確立	学校評価アンケート 「安全な生活環境」 肯定率 90%以上	①社会の状況に応じた生活安全・交通安全・災害安全の取組の創造 ②家庭・地域との連携による登下校時の安全確保 ③安全指導資料等を効果的に活用した安全指導の充実			
(2)健やかな心と体の育成	学校評価アンケート 「健やかな心と体」 肯定率 90%以上	①児童の実態を踏まえた体力向上の取組の充実 ②定期健康診断結果に基づく、家庭と連携した健康教育の推進 ③保護者や関係企業等と連携した「食に関する指導」の充実			
(3)誰もが学び、生活しやすい環境の構築	学校評価アンケート 「学び、生活しやすい環境」 肯定率 90%以上	①「ユニバーサルデザイン」を踏まえた校内環境の改善 ②「WEBQU」を効果的に活用した個別支援の充実 ③コミュニケーションの教室「ACR」における個別指導・小集団指導の充実			

重点的な取組事項－3		保護者や地域と共に子供を育む活動の充実			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者・地域と連携した教育活動の充実		学校評価アンケート：以下の3項目肯定率 90%以上が2項目以上			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
(1)学校と保護者、地域との連携	学校評価アンケート 「保護者や地域との連携」 肯定率 90%以上	①教育活動ボランティア（安全、図書、学習等）の再活性化 ②PTA・協議会と連携した安全確保や学力向上の取組の充実 ③地域の人材・学習材を効果的に活用した取組の創造			

(2)情報発信の充実	学校評価アンケート 「参加や報告の機会」 肯定率 90%以上	①教育活動やPTA・協議会活動 の積極的かつ定期的な配信 ②社会情勢に応じた授業公開や 保護者会等の実施 ③学校評価の実施方法や報告の 場の工夫			
(3)望ましい人間関係 の構築	学校評価アンケート 「楽しく充実した学校生活」 肯定率 90%以上	①「希望や目標をもって生きる態 度の形成」を核としたキャリア 教育の充実 ②児童の実態に応じた異学年交 流活動の創造・実施 ③自発的・自治的な活動を高める 児童会・クラブ活動の工夫			

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）